

※ 2016 年度から漁海況情報は年 5 回 (春夏秋冬および年報) の発行とさせていただきます。  
 春号は 4 月, 夏号は 7 月, 秋号は 10 月, 冬号は 1 月ごろ, 年報は 2 月ごろの発行を予定しています。

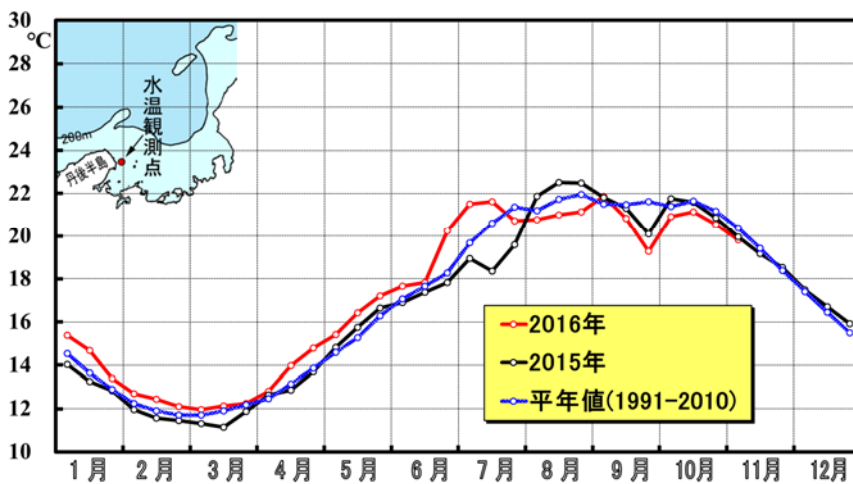
# 京都府漁海況情報

京都府農林水産技術センター海洋センター 研究部  
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>  
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

## 海の状況 ～2016 年 1 月から 12 月まで～

表層の水温は, 7 月まで例年より高めで推移しましたが, 8 月以降は例年並みかやや低めで推移しました。

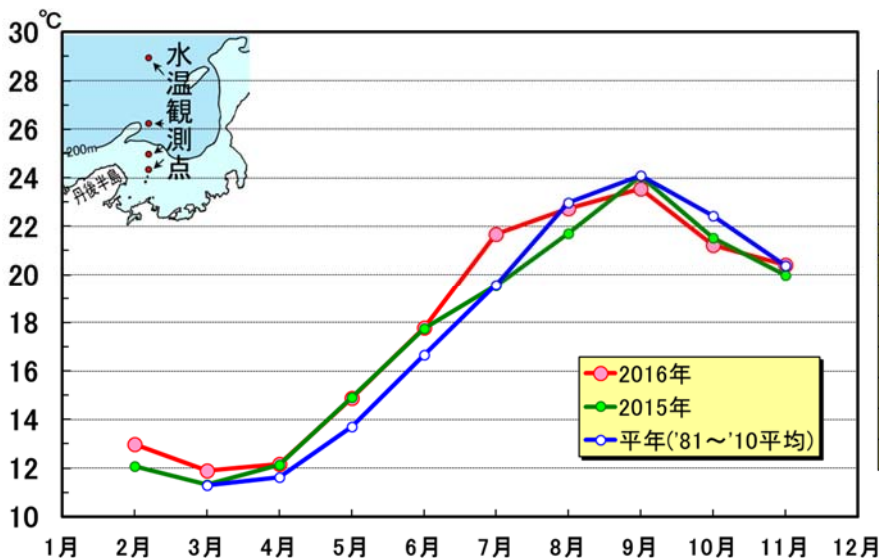
京都府沿岸 (伊根町新井崎地先 海深 64m) の水温 (50m 深)



月平均水温と平年差 (括弧内)

単位: °C	50m 深
1 月	14.4(+0.8)
2 月	12.4(+0.5)
3 月	12.1(+0.2)
4 月	13.9(+0.7)
5 月	16.4(+1.0)
6 月	18.6(+0.9)
7 月	21.3(+0.7)
8 月	21.0(-0.7)
9 月	20.7(-0.9)
10 月	20.9(-0.5)
11 月	観測中
12 月	観測中

京都府沖合の表層水温 (0~50m 深平均)



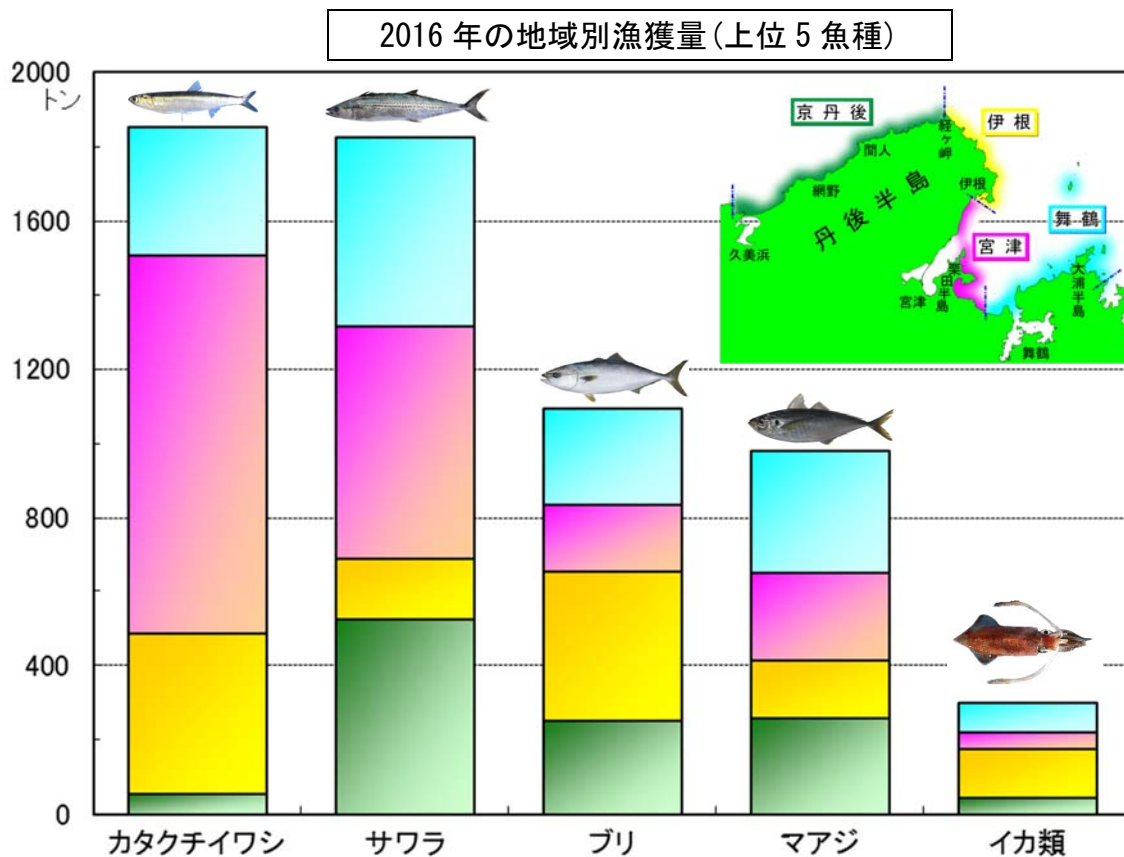
各月水温と平年差

単位: °C	水温	平年差	評定
1 月			観測なし
2 月	13.0		データ過少につき評定なし
3 月	11.9	+0.6	やや高め
4 月	12.2	+0.6	やや高め
5 月	14.9	+1.2	かなり高め
6 月	17.8	+1.1	かなり高め
7 月	21.7	+2.1	はなはだ高め
8 月	22.7	-0.3	平年並み
9 月	23.6	-0.5	平年並み
10 月	21.2	-1.2	やや低め
11 月	20.4	±0	平年並み
12 月			観測なし

# 漁模様 ～2016年1月から12月まで～

## 【定置網漁業】

サワラやスズキなどが好漁でした。一方、カタクチイワシやマアジ、イカ類が例年より少漁でした。全体では平年の8割強（前年の9割弱）の水揚げでした。



年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2016年	2015年(前年比)	平年(平年比)	備考
カタクチイワシ <sup>※(たれ)</sup>	1852.2	2118.4 (87%)	2474.9 (75%)	<サワラ> やなぎ銘柄(体重 0.4kg 未満)が 521 トン、さごし銘柄(体重 0.4kg 以上 1.0kg 未満)が 969 トン、さわら銘柄(体重 1.0kg 以上 3.0kg 未満)が 299 トン、さわら大銘柄(体重 3.0kg 以上)が 37 トンでした。
サワラ	1826.0	1591.5 (115%)	1704.0 (107%)	
ブリ	1094.3	1158.4 (94%)	1250.3 (88%)	
マアジ <sup>※</sup>	978.6	2189.8 (45%)	1460.5 (67%)	
イカ類	299.4	219.0 (137%)	394.4 (76%)	
シイラ	257.8	172.2 (150%)	211.9 (122%)	<ブリ>
スズキ	225.7	115.1 (196%)	116.3 (194%)	つばす銘柄が 676 トン、はまち銘柄が 243 トン、まるご銘柄が 65 トン、ぶり銘柄が 110 トンでした。
サバ類	202.8	219.6 (92%)	353.2 (57%)	<イカ類>
トビウオ類	157.9	186.4 (85%)	177.1 (89%)	ケンサキイカ(白いか)が 94 トン、アオリイカ(秋いか)が 81 トン、ヤリイカ(冬いか)が 60 トン、スルメイカが 40 トン、ソデイカ(たるいか)が 19 トンなどでした。
カマス類	153.0	246.2 (62%)	292.1 (52%)	
その他	1071.6	1259.8 (85%)	1563.0 (69%)	
合計	8119.4	9476.4 (86%)	9997.7 (81%)	

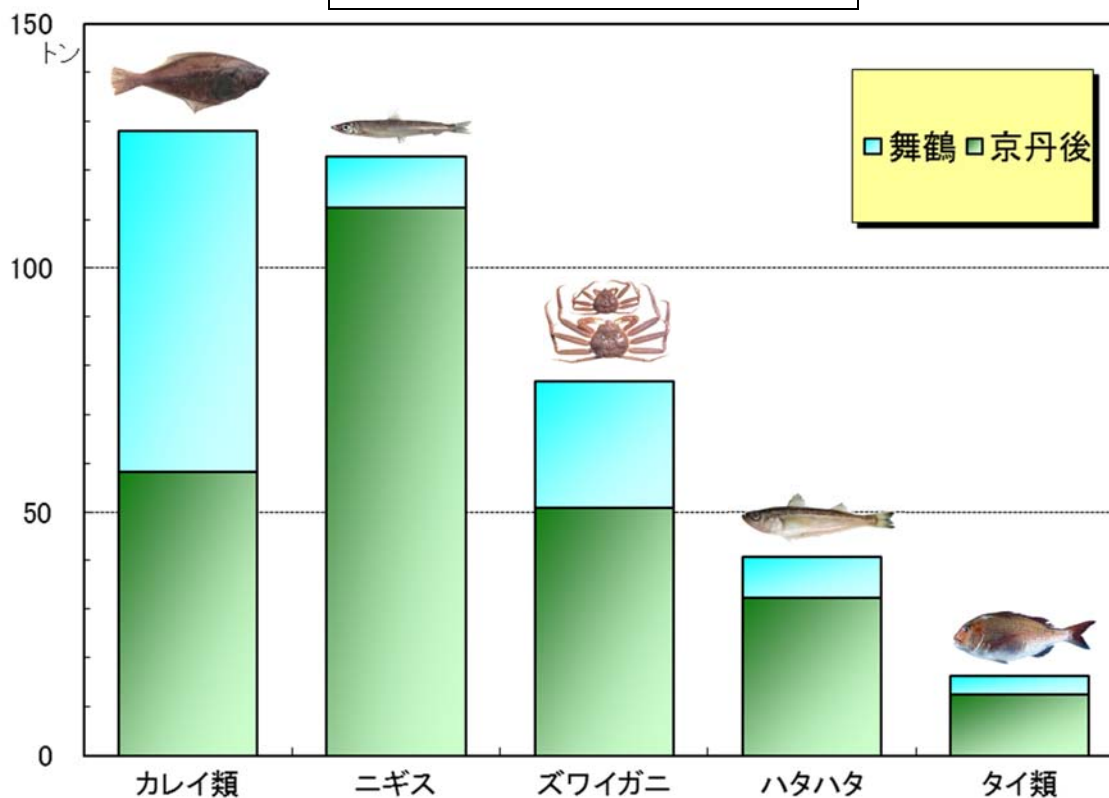
※ 混ぜり銘柄(主体となる魚種に、他魚種の小さなサバ類、マイワシ等が混ざったもの)も含めて集計。

平年は過去 10 年平均

## 【底曳網漁業】

主要な魚介類の中では、ニギスが好漁でしたが、カレイ類が平年比 6 割弱（前年の 7 割強）、ハタハタが平年比 3 割（前年の 8 割）と少漁でした。全体では、平年の 7 割強（前年並み）の水揚げでした。

2016 年の漁獲量(上位 5 魚種)



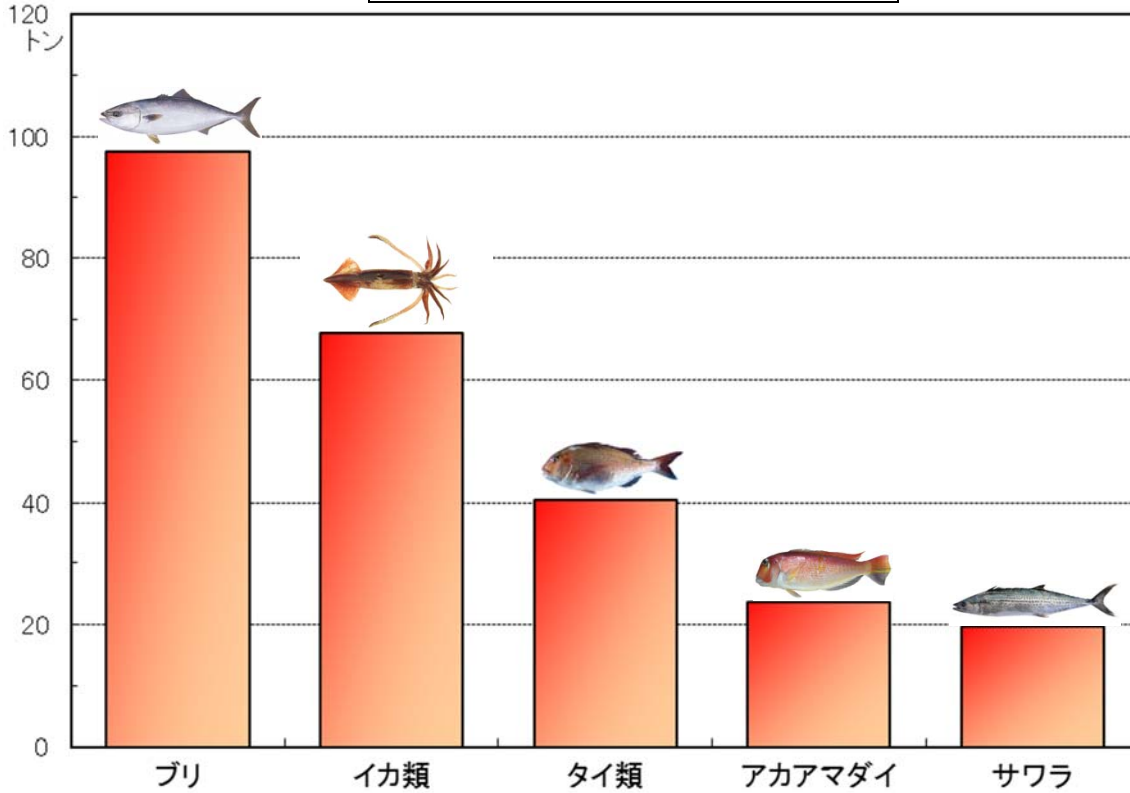
年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2016年	2015年(前年比)	平年(平年比)	備考
カレイ類	128.1	178.2 (72%)	215.9 (59%)	<カレイ類> アカガレイ(まがれい)が 77 トン、ソウハチ(えてがれい)が 22 トン、ヒレグロ(黒がれい)が 15 トン、ヤナギムシガレイ(ささがれい)が 6 トン、ムシガレイ(水がれい)が 5 トンなどでした。
ニギス	122.9	109.3 (112%)	102.3 (120%)	
ズワイガニ	76.7	62.4 (123%)	86.9 (88%)	
ハタハタ	40.6	50.6 (80%)	136.6 (30%)	
タイ類	16.1	11.5 (140%)	13.4 (120%)	
イカ類	11.3	11.5 (98%)	8.5 (133%)	<ズワイガニ> オス(間人がに・舞鶴かに)が 34 トン、メス(せこがに)が 43 トンでした。
アンコウ類	9.1	10.3 (89%)	22.5 (41%)	
タコ類	8.8	7.5 (116%)	11.4 (77%)	
エビ類	8.4	8.6 (98%)	7.0 (119%)	
タラ類	7.9	7.7 (103%)	4.0 (197%)	
その他	53.3	51.5 (104%)	48.6 (110%)	
合計	483.2	509.1 (95%)	657.2 (74%)	

平年は過去 10 年平均

## 【釣り・はえなわ漁業】

主な釣獲対象となる魚介類のなかでは、ブリが好漁でした。全体の水揚げ量は、平年の1.1倍（前年の1.5倍）でした。

2016年の漁獲量(上位5魚種)



年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2016年	2015年(前年比)	平年(平年比)	備考
ブリ	97.5	39.4 (248%)	53.7 (182%)	<ブリ>
イカ類	67.8	38.7 (175%)	76.5 (89%)	つばす銘柄が19トン、はまち銘柄が16トン、まるご銘柄が47トン、ぶり銘柄が16トンでした。
タイ類	40.5	38.0 (107%)	33.1 (123%)	<イカ類>
アカアマダイ(ぐじ)	23.8	20.9 (114%)	21.3 (112%)	ソデイカ(たるいか)が39トン、スルメイカが21トン、ケンサキイカ(白いか)が5トン、ヤリイカとアオリイカ(秋いか)が若干量でした。
サワラ	19.7	16.5 (120%)	26.6 (74%)	<タイ類>
メバル類	15.5	15.1 (103%)	13.2 (117%)	マダイが29トン、キダイ(レンコダイ)が11トン、クロダイとチダイが若干量でした。
ウマヅラハギ	5.4	7.7 (70%)	6.2 (87%)	
ヒラマサ	1.9	1.3 (152%)	0.9 (214%)	
スズキ	1.8	1.7 (103%)	2.2 (79%)	
メジナ	1.4	1.5 (91%)	0.7 (200%)	
その他	16.1	17.6 (92%)	32.1 (50%)	
合計	291.4	198.2 (147%)	266.4 (109%)	

平年は過去10年平均

## 【2016年の特異的なできごと】

冬

- ・サワラが定置網でまとまる  
(1~3月に平年比1.7倍の470トン)。
- ・寒ブリが定置網でふるわず。  
(1月は平年比1割弱の4トン)
- ・カタクチイワシ(たれ)が定置網でふるわず。  
(1~3月に平年比3割弱の137トン)



春

- ・4~6月に平年より高い水温が続く。  
(5月は平年比+1.2℃)
- ・カタクチイワシ(たれ)が定置網でふるわず。  
(4~6月に平年比3割強の364トン)
- ・ウマヅラハギ(長はぎ)が定置網でまとまる。  
(4月に平年比6.2倍の40トン)
- ・6月にウルメイワシが定置網でまとまる。  
(平年比156倍の27トン)



夏

- ・台風1号の発生が過去2番目に遅かった。
- ・7月の水温が平年比+2.1℃とはなはだ高かった。
- ・マアジが定置網でふるわず。  
(7~9月に平年比8割弱の239トン)
- ・シイラが定置網でまとまる。  
(8~9月に平年比2.5倍の216トン)



秋

- ・ブリ(つばす)が定置網でまとまる。  
(10月に平年比1.5倍の206トン)
- ・マアジが定置網でふるわず。  
(10~12月に平年比6割の163トン)
- ・カタクチイワシ(たれ)が定置網でまとまる。  
(12月に平年比10倍の696トン)
- ・寒ブリが定置網でふるわず。  
(12月に平年比1割強の8トン)



トラックの荷台いっぱいのかたくちイワシ

## 【2016 年に見かけた珍しい生き物】

下の写真は、2016 年に丹後の海で見られたあまりなじみのない生き物の一例です。

ユキフリソデウオ	スジハナビラウオ
 <p>全長：最大 1m (標本は全長 71.4 cm, 宮津市で 1/27 採捕)            分布：太平洋と大西洋の水深 200~800m            特徴：日本近海でも最近採捕例が増えている。</p>	 <p>全長：最大 40cm (標本は 19.2cm, 宮津市で 7/22 採捕)            分布：相模湾・島根県以南            特徴：若魚は黄色っぽく、成魚は黒っぽい。クラゲを食べる。</p>
リュウグウノヒメ	クマサカフグ
 <p>全長：最大 40 cm (標本は全長不明, 宮津市で 7/24 採捕)            分布：太平洋、インド洋、駿河湾、秋田県沖。            特徴：日本海での採捕は非常に珍しい。            写真ではわかりづらいが背びれと尻びれは極めて大きい。</p>	 <p>全長：最大 45cm (標本は約 40cm, 宮津市で 7/22 採捕)            分布：太平洋、相模湾以南。外洋の中層。            特徴：体は長くて流線形に近い。腹面には強力なとげがまばらに存在する。毒性は不明。日本海での発見は非常に珍しい。</p>
イシダイ×イシガキダイ	クサビフグ
 <p>全長：不明 (標本は全長 21.6 cm, 宮津市で 11/29 採捕)            特徴：イシダイとイシガキダイの交雑種。天然のものもしばしば観察される。近畿大学では 1970 年に生産に成功。「キンダイ」の名で販売している。</p>	 <p>全長：最大 50cm (標本は全長 42.2cm, 宮津市で 12/6 採捕)            分布：世界中の熱帯域            特徴：体長が数mmの幼魚の頃は尾ビレがあるが、成長とともに退化する。</p>

参考文献：「新訂原色魚類大図鑑(北隆館)」「釣魚 1400 種図鑑(KADOKAWA)」

今回、標本や情報のご提供を頂いた栗田漁業生産組合、寿司なみじ店主岸本氏、京都府漁業協同組合ほか水産関係の皆様には感謝いたします。珍しい海の生き物を発見された場合には、当所までご一報いただけると幸いです。